

令和7年度第5回富津市学校運営協議会（大貫小）会議録（要旨）

○ 参加者

〔委員〕

加藤 悟（会長） 藤平 勝正 竹内 弘 平野 朋子
杉田 玲子 三木 照恵 梅原 淳 秦野 真紀

〔職員〕

佐粧 光一

〔傍聴者〕 4名

○ 概要

(1) 学校評価アンケートの結果について（説明）

(2) 学校運営協議会議

ア 保護者同士の交流について

（学校運営評価の「親同士の交流がもう少しあってもよい。子どもと保護者の顔が一致しない」を受けて）

- ・自分が保護者だったとき、学年で週末に親子レクの企画があり、よかった。学校以外の時間を共有することはよいこと。
- ・新しいことを始めるのは大変。また、仕事を休む日を増やすことも難しい。レクをするのであれば、懇談会の後に実施すれば、残りやすいのではないか。
- ・保護者自身ができることを考え、交流できる場をつくれるとよい。
- ・前回の草刈り隊に6年生が参加したことはとてもよかった。子どもが参加すると、親も参加しやすい。そこから親同士の交流も生まれてくる。

イ P T Aについて

- ・本当にP T Aの組織や役割が必要なのか、見直す時期に来ている。
- ・P T A役員の仕事内容が精選されてきているのに、「役員をやりたくない」という意見が多いのは、仕事内容がわからないからだと考えられる。内容を明確に伝えることが必要。
- ・P T Aという組織は全国的にも問題になっている。統合により、変革のチャンスである。

ウ 委員の方一人一人から

- ・担任の先生は連絡帳の向こうには親がいることを意識し、上手に活用してほしい。何のための連絡帳なのか。学校全体の動きと連動し、保護者に知らせていくことで参画意識が高まると考えられる。
- ・国際交流協会に所属し、交流学习を行っている。交流まで至らなくても、授業参観等でも、興味をもつきっかけとなればよい。
- ・本校でもP T A見守り隊やP T A草刈り隊等、ボランティアの方が活動してくれている。ボランティア同士の交流ができるとよい。
- ・授業の支援等、今できることに一つ一つ取り組んでいきたい
- ・佐貫小との統合が4月に控えている。それぞれの学校のよいところを生かしながら、ふるさとを好きになるようにしていきたい。
- ・各学年、ほぼ単学級となる。固定された人間関係をくずすためには教師が意図的に交流を仕組んでいく必要がある。